



まな
いずみちゃんと学ぶ
～役場の仕事について～



総務課
☎53・2409

Q 役場って何をしているの？

A みんなが気持ちよく、安心して暮らしていくためには、色々なサービスや手続きが必要です。役場は、みんなが住みやすい村にするために、まどくちぎょうむ すいどう かんり としょかん こうえん こうきょうしせつ うんえい おこな 窓口業務から水道の管理、図書館やさつき公園など公共施設の運営を行っています。村長と職員で意見を出し合いながら、みんなの声を聞き、村の発展と村民の幸せのために仕事をしています。

役場の中でも、それぞれの役割ごとの課に分かれて村づくりに取り組んでいます。

次回からは、役場の各課の紹介をしていきます。

6月号では、総務課の紹介をします。

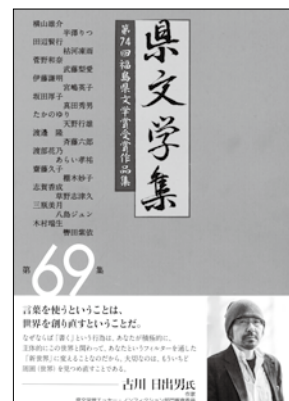


過去の記事はこちら！

泉崎の文芸

～村内の優れた文学作品等を紹介～④

あらい孝祐氏プロフィール
昭和34年泉崎村生まれ
白河高校、青山学院大学文学部卒、平成26年まで村職員として勤務。
第72回福島県文学賞短歌部門奨励賞
第74回福島県文学賞短歌部門正賞



寄贈していただいた「県文学集第69集」

このコーナーでは、令和3年の第74回福島県文学賞で正賞を受賞されたあらい孝祐氏の作品をご紹介します。
この度、第74回福島県文学賞の受賞作を収めた「県文学集第69集」が完成し、書店販売が開始されましたが、それに合わせて、あらい氏が来庁し、当文学集を寄贈していただきました。なお、こちらの文学集につきましては、第72回受賞作品の紹介が終わりましたら、ご紹介予定です。
今月も第72回福島県文学賞で奨励賞を受賞された作品「若鮎さ走る」全50首の中から5首をご紹介します。

かぶりつけばふはり白き身湯気立ちぬ塩の甘さよ香魚塩焼き
白百合が山にぽっかり咲く頃は鮎は釣れぬと古老云ひけり
日焼け止め塗るのを忘れ川中に立てば項のちりちり灼けく
ひつたくるやうなアタリに辛うじて竿を立つれど野鮎浮き来ず
外れるなよ 外れたら帰る 釣りやめる ああ、今のなし 独り言多く